

## Press Release

報道用資料

2006年9月14日

**消費者は安全や環境・燃費に関する自動車先進技術に高い興味・購入意向を持つ****2006年日本自動車先進技術調査**

CS（顧客満足度）に関する調査・コンサルティングの国際的な専門機関である株式会社 J.D. パワー アジア・パシフィック（本社：東京都港区、代表取締役社長：蓮見南海男、略称：J.D. パワー）は、2006年日本自動車先進技術調査の結果を発表した。

当調査は自動車先進技術に対する消費者の認知度、興味度および購入意向について調査するもので、46にのぼる自動車先進技術・装備を対象としている。米国と欧州でも同様の調査が実施されているが、日本編ではハイブリッドエンジン、クリーンディーゼルエンジン、ドライブレコーダー、地上デジタル放送対応チューナーなど、日本市場固有の事情や特徴にあわせた日本独自の調査対象を盛り込み、市場環境の要請に応える調査仕様としている。またナビゲーションシステムとテレマティクスに関するユーザーの使用実態や満足度、今後の意向等についても聴取している。

4回目の実施となる今年の調査は、過去5年以内に新車を購入した一般の乗用車（含軽自動車）ユーザーで購入決定に関与し購入車を主に運転している人を対象としている。7月上旬にインターネット調査を実施し8,650人から回答を得た。

**多段式エアバッグ、認知度はまだ低い、興味と購入・装備意向は高い**

調査では各先進技術・装備について説明した上で、それぞれをどの程度知っているかを聞き（認知度）、その後価格を提示せずに興味度を聞く。さらに価格（低価格、中価格、高価格の3段階）を提示し購入・装備の意向があるかを聞いている。

調査対象の46の先進技術・装備のうち、価格提示前の興味度と価格提示後の購入意向のそれぞれにおいて全体平均を上回ったのは13の技術・装備だった。興味度と購入意向共に特に高かったのはフロントサイドエアバッグ、多段式エアバッグ、ハイブリッドエンジン、ディスチャージ（HID）ヘッドライトの4技術・装備で、これらに共通する安全性や環境・燃費経済性にユーザーが高い関心を寄せていることがわかった。

また、4つの技術・装備の中で多段式エアバッグのみは認知度が全体平均を下回った。低い認知にも関わらず技術の説明後には非常に高い興味と購入・装備意向が示されるという他の3つの技術とは異なる結果が出た。今後ユーザー間で認知が順調に高まるものと仮定すると、興味や購入・装備意向もさらに高まることが予測され、多段式エアバッグの潜在的可能性の高さがうかがわれる。

**ナビはHDDへ移行拡大の可能性が高く、テレマティクスは拡大途上の段階にある**

ナビゲーションシステムについては、回答者の約60%が現在装備していることがわかった。さらに現在装備している人を含めた今後の購入意向は80%を越える高い結果となり、ナビゲーションシステムが今や必須装備と言える位置づけにあることが確認できた。現在保有しているナビゲーションシステムの種類については、DVDナビゲーションシステムが5割近くを占めており、DVDが主流となっている結果が出た。しかし、次回購入意向におい

てはHDDナビゲーションシステムがDVDを大きく上回った（HDD79% 対 DVD16%）。

さらに現在装備している人の満足度を調べたところ、HDDナビゲーションシステムでは満足している人（「大変満足」、「満足」、「まあ満足」と回答した人）の割合が70%以上と高く、DVDナビゲーションシステムの約50%を大きく引き離れた。これらのことから、ナビゲーションシステムが今後、ほぼ間違いなくDVDからHDDに移行・拡大することが予見できる。

またナビゲーションシステムを装備している人のうち、テレマティクスを利用している人は13%にとどまり、この技術の利用がまだ十分に広がっていないことがわかった。ナビゲーションシステムを装備する意向を持つ人に今後テレマティクスが必要かを聞いたところ、「どちらともいえない」とした人が50%近くを占め最も多かった。「必要」あるいは「不必要」と答えた人の割合も25%から30%程度でほぼ拮抗しており、先を見通しにくい結果となった。

テレマティクスの個別サービスでは、現ユーザーの使用頻度、満足している人の割合共に1位が「ルート案内全般」、2位が「現在の渋滞情報」だった。一方、現在はテレマティクスサービス未使用（非加入）だがその必要性を感じている人が最も高い興味を示しているのは、圧倒的に高い割合（96%）で「最新の地図データ更新サービス」だった。現ユーザーの使用実態と潜在ユーザーの興味のずれ違いに、テレマティクスの今後の拡大へ向けたヒントがあると思われる。

<株式会社J.D. パワー アジア・パシフィックについて>

当社は米国J.D. パワー・アンド・アソシエイツの日本を含むアジア地域でのビジネスの拠点として1990年に設立された。自動車業界を始めコンピューター、通信関連、OA機器、サービス産業、金融など様々な業界において顧客満足に関する調査やコンサルティングを実施している。ISO9001 およびプライバシーマーク取得。会社概要や提供サービスなどの詳細は当社ウェブサイト [www.jdpower.co.jp](http://www.jdpower.co.jp) まで。

<J.D. パワー・アンド・アソシエイツについて>

ザ・マグロウヒル・カンパニーズの一部門である J.D. パワー・アンド・アソシエイツ（本社：米国カリフォルニア州ウェストレイク・ビレッジ）は、マーケティング・リサーチ、生産・販売予測、コンサルティング、教育・トレーニングおよび顧客満足度調査を実施している国際的な情報サービス企業である。数百万人の消費者からの回答をもとに品質や顧客満足度に関する調査を毎年行なっている。ISO9001 取得。

<ザ・マグロウヒル・カンパニーズについて>

1888年に設立されたザ・マグロウヒル・カンパニーズは、スタンダード&プアーズ、マグロウヒル・エデュケーション、ビジネスウィーク、J.D. パワー・アンド・アソシエイツなどを通じて金融サービス、教育、ビジネスに関する情報を提供している国際的な情報サービス企業である。世界38カ国に290カ所以上の拠点を有し、2005年の売上高は60億ドルにのぼる。詳細はウェブサイト [www.mcgraw-hill.com](http://www.mcgraw-hill.com) まで。

<当調査に関するお問い合わせ先>

(株) J.D. パワー アジア・パシフィック

コーポレート・コミュニケーション・グループ 川野、杉崎

住所： 東京都港区虎ノ門5-1-5 虎ノ門45MTビル（〒105-0001）

電話： 03-4550-8090

FAX： 03-4550-8151

e-mail： [cc-group@jdpower.co.jp](mailto:cc-group@jdpower.co.jp)

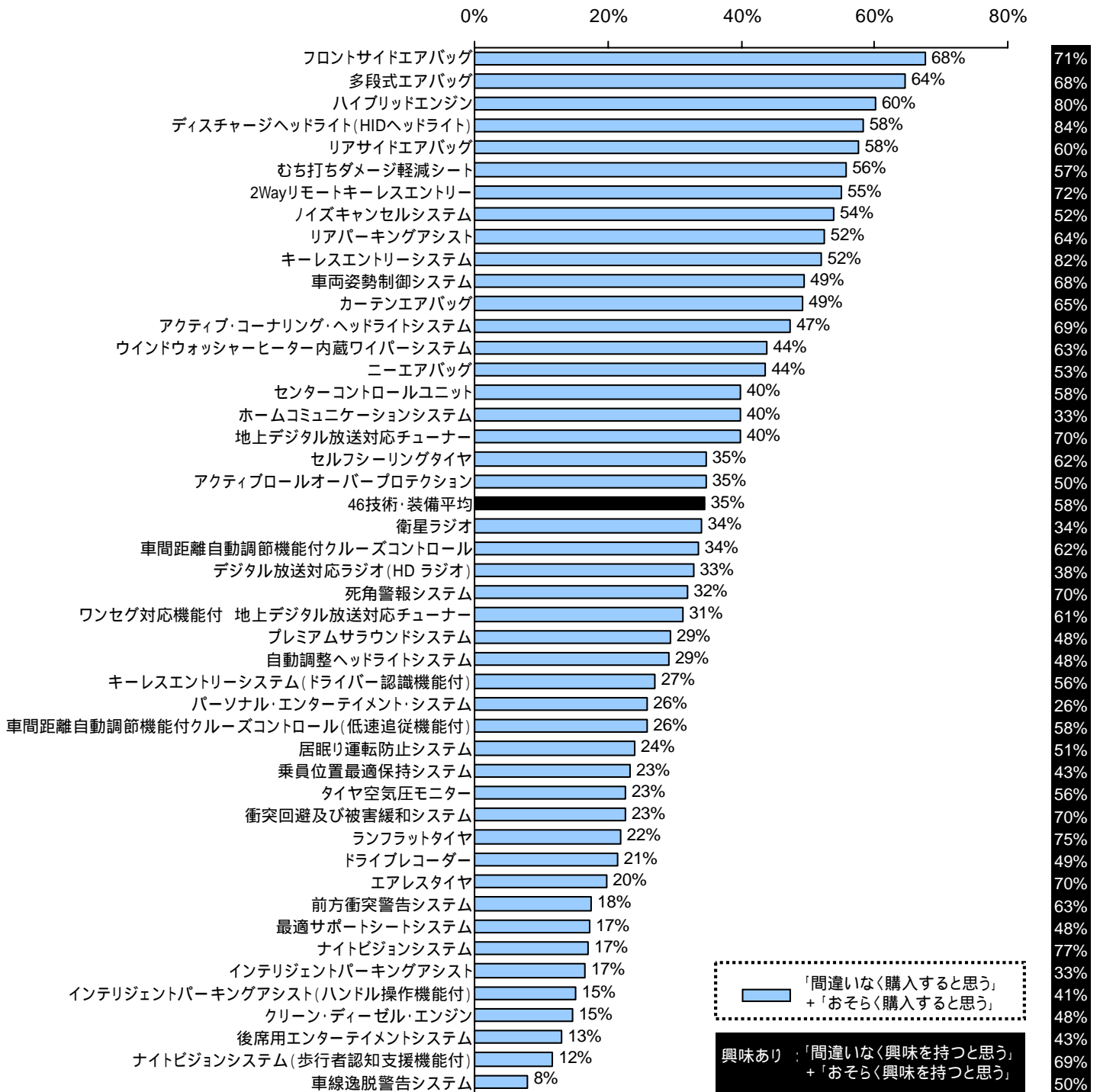
<ご注意>

本紙は報道用資料です。(株)J.D. パワー アジア・パシフィックの許可無く本資料に掲載されている情報および結果を広告または販促活動に転用することを禁止します。

# J.D. パワー アジア・パシフィック 2006年日本自動車先進技術調査<sup>SM</sup>

## 購入意向 (低価格、中価格、高価格提示後の平均)

**興味あり  
(価格提示前)**



出典: J.D. パワー アジア・パシフィック 2006年日本自動車先進技術調査<sup>SM</sup>

本紙は報道用資料です。J.D. パワー アジア・パシフィックの許可無く、本資料に掲載されているデータを広告および販促活動に転用することを禁止します。

報道で本資料に使用されている図表およびグラフを引用する際には、必ず、調査レポート発行者および出典(J.D. パワー アジア・パシフィック 2006年日本自動車先進技術調査<sup>SM</sup>)を明記してください。